

JA 湘南真田大豆転作組合の取組について

平塚市真田 真田大豆転作組合
組合長 加藤忠秋

1. 地域の概要

平塚市は県の南中央に位置し、JR 東海道線、国道 1 号線や小田原厚木道路等古くから東海道の宿場町として交通の要所となっています。

比較的温暖な地域で、多様な農作物栽培に適しています。比較的平坦で、県下最大の水田地帯を要し、水稻を中心とした施設・露地野菜、施設花卉、果実、酪農等の複合経営が営まれています。

2. 組織の沿革

当地区では、昭和 58 年度構造改善事業による 53ha の基盤整備を行い、2 年 3 年のブロックローテーションによる集団転作に取り組んでいます。

転作作物として麦の集団栽培の後作として、夏作に大豆栽培に取り組み、平成 3 年 6 名の有志により転作大豆栽培組織を結成しました。その後、大豆販売価格の低迷や作業労力等の関係から、組織運営が難しくなりました。

平成 12 年頃から津久井在来大豆の高い加工適性や地産地消等の情勢から、大手加工業者からの引き合い等有利販売が可能となりました。平成 18 年 2 名の会員を加え、現在 5 名の会員で取り組んでいます。

最近の大豆栽培面積の推移

年度	栽培面積	集荷量	平均収量 (kg/10a)
H12	160a	1,634kg	149kg
H16	180a	3,015kg	168kg
H17	150a	2,327kg	155kg
H18	245a	6,070kg	248kg

3. 組織構成及び運営

組合員 5 名、組合長 1 名、会計 1 名の役員体制で、全員出席、全員合意を原則として開催・運営しています。組織運営費や共同利用機械の購入経費を捻出するため、平成 18 年新たに共同栽培圃場を設け、組合員全員出役による共同作業を行っています。

- ① 大豆の栽培は、原則個人管理
- ② 大豆栽培のポイントである種子消毒と病害虫防除は共同作業
- ③ 播種機・収穫機・調整機は共同利用による経費を削減

H18 年に収穫機を共同で購入

H19 年は調整機を共同で購入予定

年間の主な作業スケジュール

主な作業時期	主な作業内容
6月下旬～7月上旬	播種作業
7月中旬～8月	中耕・土寄せ作業（2～3回）
8月下旬～9月	病虫害防除（共同作業）
10月下旬～11月上旬	刈り払い機による収穫作業
11月中旬	脱粒作業（共同作業）
11月中旬～12月上旬	粒選別作業
1月下旬	出荷

4. 活動実績

生産された大豆は、農協による検査を受け、農協を通じて販売しています。主な販売先は、地元で加工を行っている農家への販売を優先し、地産地消の取組みを進めるために味噌や豆腐業者等幅広く取引を行っています。

5. 今後の取組み

- ① 組合員の新規加入等による生産の拡充
- ② 低コストで効率の良い機械の導入による省力化
- ③ 環境に優しい農業技術の一層の推進と安全・安心な生産
- ④ 県内加工業者を交えた地産地消の推進
- ⑤ 大豆を利用した伝統的な食文化の伝承